

ガンコ親父の

天上の神様たちの一人に「マッチ」の愛称で呼ばれる正義感の強い神様がいた。本名は松次郎という「火」の神様だったが、ラニーニャ現象の今年は厳冬でいつになく忙しかった。火のついた松明（たいまつ）を神様たちの暖房用に配る任務だったが、よく火傷をした。火傷のたびに「熱男（アツオ）」と叫んでいた。マッチ神様は下界を眺めた。雪降る寒い夜、クリスマスに前の人々が慌ただしく歩いている。貧しそうなお少女がマッチを売ろうと、行き交う人々に声をかけていた。

「マッチ、いかがですか」と裕福そうな貴婦人の前にも出て、「あなた邪魔だわ。うちは電子着火なので、マッチなんか必要ないの」と、身体を跳ね除けられた。「これから忘年会なんで急いでいるんだ。そんな時間ないよ」などという人ばかりで、マッチを買ってくれる人なんて誰一人いなかった。

母親を亡くした少女には失業中で乱暴者の父親がいた。クリスマス前の書き入れ時だというのに、マッチが全然売れなかったので、帰宅後のキツイお仕置きは目に見えている。それを思うと立ちくらみがしそうだ。その瞬間、少女は馬車からはねられそうになり、脱げた片方の靴を川の中に失くした。歩けなくなった少女はあまりの足の冷たさに、建物の陰で空腹を抱えて佇んでしまった。

天上から眺めていたマッチ神様は、世間の人間の冷たさに憤慨した。不憫な少女をなんとか救ってあげたかったが、人間の人生を勝手に変えることはできないという天上界のルールのために手が出せなかった。できることといえば声をかけ、夢を見させて励ますことだけだった。

「少女よ、売り物のマッチを擦って火を点けなさい。このままでは凍死するから」とマッチ神様は声をかけた。少女はどこから聞こえてきた声に誘われ、マッチを擦り始めた。一本擦ると、「シュツ」と明るく燃え出した炎の中に暖かいストーブが現れ、少女の手を温めてくれた。しかしマッチはすぐに燃え尽き、名残惜しい少女は二本目のマッチを擦った。今度は炎の中にクリスマスケーキが現れて消えた。そして三本目を擦ると今度はがちょうの丸焼きが。少女は経験したことのない聖夜の世界に夢中になった。マッチ神様からの「夢」のプレゼントはさらに続いた。

七本目に、少女を一番可愛がってくれたおじいちゃんが現れた。おじいちゃんの姿が消えてしまわないようにと、少女はマッチを次々に擦り始めた。やがてマッチの棒は無くなった。暖を取れるものが無くなり、少女の身体から急速に体温が奪われていった。心の中におじいちゃんの温もりを残し、少女は満足そうに瞳を閉じた。

マッチ神様は降り続く深夜の雪の中を舞い降り、少女の温かさが残る魂を抱きながら天に昇っていった。少女を死から救えなかったことに無力感を覚えて苦しんだが、それを知っている友人の神様にそっと肩を抱かれ『しまっちゅ伝蔵』を手渡された。「君はよくやったよ」。予期せぬクリスマスの暖かいプレゼントに、マッチ神様は涙をこぼした。

奄美黒糖焼酎
常圧蒸留
でん ぞう
伝蔵



昔ながらの手造り
こだわり焼酎
喜界島の肥沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
0997(65)0251

「マッチ物語」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。